

医療分野研究開発推進計画の実行状況と今後の取組方針2018(案)ポイント

平成29年度時点における推進計画のフォローアップ

参考2

PDCAサイクルの一環として、健康・医療戦略推進専門調査会が平成29年度推進計画実行状況のフォローアップを実施(平成30年4月及び5月)。全体として順調に推移していると評価。

平成29年度の主な実行状況・成果

平成30年度の主な取組方針

ICTに関する取組

医療情報のデータ収集・分析を行う事業に関し、効率的かつ効果的なICTの利活用に必要な検討を行うとともに、平成29年5月に「次世代医療基盤法」を公布。

「次世代医療基盤法」を適切かつ円滑に施行する。また、人工知能技術を活用した診断支援等に資する研究開発等に向けた取組を実施する。

AMEDが果たすべき機能

- 利益相反マネジメントのルールを適切に運用、評価手法の共通化
- 研究開発課題情報のデータベース(AMS)の充実(タグ情報の付与等)
- 若手研究者の支援・育成に関し、若手育成枠を推進

- 国際レビューアの導入、データマネジメントプランの作成・提出の推進
- インハウス機関等の課題情報との連携、公開版DB整備に向けた取組
- 若手育成枠を推進しつつ、学際的議論の促進等のための事業を充実

基礎研究から実用化へ一貫してつなぐプロジェクト

各省連携プロジェクトを5つの「横断型統合プロジェクト」(医薬品、医療機器、革新的な医療技術創出拠点、再生医療、ゲノム医療)と4つの「疾患領域対応型統合プロジェクト」(がん、精神・神経疾患、感染症、難病)に整理し、連携させて推進

(がん)多発性骨髄腫において、活性型の構造を有するインテグリンbeta7が特異的に高発現していることを発見。がん免疫療法の一つであるCAR-T細胞療法の標的になり得ることを示した。
(難病)内転型痙攣性発声障害を対象に開発中のチタンブリッジについて、平成29年2017年12月に製造販売承認を取得し、先駆け審査指定制度における最初の承認品目となった。

(医薬品)遺伝子・細胞治療に関する実用化を前提としたウイルスベクター製造技術の開発・技術基盤を整備し、遺伝子・細胞治療研究のネットワークを構築。
(精神・神経疾患)脳全体の神経回路の構造・機能の解明やバイオマーカー開発に向けた研究開発及び基盤整備等を推進しつつ、認知症等の発症メカニズム解明、診断法、適切な治療法の確立を目指す。